



松本市ポンプ操法大会  
**「ポンプ車操法の部」優勝!!**  
 松本消防協会ポンプ操法大会  
**「ポンプ車操法の部」敢闘賞 (第3位) 受賞!!**



館報  
**おなかだ**



このポンプ操法大会に向けて、昨年10月頃から始動し、本格的には4月から松本市総合体育館の駐車場を借り1週間に3日程度、夜19時30分頃から21時30分頃に訓練(練習)

ポンプ操法とは、火災現場で正確で迅速に消火活動を行うための基本操作を習得するための訓練の一つです。防火水槽から給水し、火災を想定した火点(かてん)と呼ばれる的にめがけて放水し、撤収するまでの一連の手順の速さと正確さを競います。「ポンプ車操法」と「小型ポンプ操法」の2種類があり、今回17分団は「ポンプ車操法」の部で出場

松本市消防団第17分団は、6月2日(日)に行われた松本市ポンプ操法大会のポンプ車操法の部で、「優勝」という輝かしい結果を残しました。さらに、7月7日(日)に行われた松本消防協会ポンプ操法大会では、同じくポンプ車操法の部で「敢闘賞(第3位)」を受賞しました。これも岡田地域の皆様のお力添えのおかげです。



優勝旗を掲げる団員たち

を行ってきました。本業の仕事が終わった後に集まっていた訓練でしたので、選手はもちろんサポートの団員も含めて17分団が団結して訓練を行った結果の優勝及び敢闘賞受賞です。ポンプ操法の訓練を通じて、17分団の団結力が一層向上したと思います。消防団員は、他に火災や災害があった時の出動はもちろ

んですが、予防活動としての訓練、点検、広報といった活動も行っています。毎月15日の市民防火の日の広報、歳末警戒、岡田夏まつりなどの花火警戒、消火栓の点検等です。消防団のすべての活動は、本業の仕事を持つ消防団員が行っています。17分団は岡田地域で暮らす人で「自分たちの地域は自分たちの手で守る」との思いを持って集まった団員で構成されており、岡田地域の安心・安全のために活動しています。いざという時や、災害が発生した時のための消防団員ですが、消防団員であることの意義はそれだけではなく、同じ岡田に暮らす者として消防団活動を通じて絆を深めることができます。今回もそのような17分団の団員で囲んだ優勝及び敢闘賞受賞ですので、岡田地域の絆がさらに強固なものになったといっても過言ではないと思います。しかし、まだまだ消防団員は不足している状況にあります。岡田地域の絆を深めるためにも多くの方の消防団への入団を歓迎します。

(第17分団長 菅田雅弘)



地球の成り立ちを知り、苦勞して塩を運んだ古道を体験できた貴重な一日になりました。

谷から塩の道を北に歩き、今回は糸魚川市中山峠から大野地区を、ガイドの説明を聞きながらの散策でした。出発地のフォッサマグナパークを見学し、塩の道を歩き始めました。ウトウトと呼ばれる人や牛の足で踏み固められたU字状の道になっていて、当時の往来の多さが想像できませんでした。茶屋跡や腫れ物に効くというカンパ地蔵を過ぎ、峠を越えました。



塩の道を歩く

(取材 酒井)

塩の道を訪ねて

6月24日(月)、公民館主催の「自然と歴史に親しむ講座」が開かれ、19名が参加しました。2年前から数回に分け、小



昭和15年前後の祭典の様子

伊深神社は正しくは「若宮八幡社」とよばれ、伊深城跡の東南麓の山の中腹に位置しています。この神社の来歴については不明なことも多いのですが、最近の研究で分かっています。岡田歴史研究会編著「岡田再発見」(H29)によると、平安時代までは岡田神社本宮として、応神天皇(誉田別命)、仁徳天皇(大雀命)を祭る古社で、仁徳天皇の頃(西暦300年代)に「井更八幡宮」として創建され、推古天皇の頃(西暦

**岡田ほっとニュース**

● 伊深神社の創建と祭神、祭典について ● 伊深

500年代)には於加田神社と呼ばれるようになった、とあります。その後、室町時代後期(西暦1400年代)になると、岡田神社本宮は、井深城主となった後序氏の氏宮となり、岡田神社から分かれた。城主没落後は井深(伊深)の住民により守られ、江戸時代には二度建て替えが行われています。

祭例は現在5月4、5日(旧暦6月16日)で岡田神社と同じです。私の子どもの頃(昭和30年代)は、神社の祭りが楽しみです。当日は早朝から神社の太鼓の音が響き、境内には的屋さんの屋台が十店程並び、綿菓子やおモチヤのピストル、風船などが親からももらった小遣いで買うのが楽しみでした。

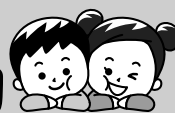
また秋の穫り入れが終わると神社で餅投げがあり、当時の青年団(男女15〜20歳位)の皆さんが中心となって作った平べったい丸い餅、繭型をした餅を一斗杵に詰めて本殿北の小社の屋根に登り、餅拾いに集まった子どもや大人の中心にバラ撒くといったものでした。

今は全くその面影もありません。そんな昔の楽しい思い出がありますが、これからは楽しかった餅投げなどの行事が復活できたらいいなと思っています。

(取材 大久保)

地域の皆さんの力を借りて

岡田小学校 クラブ活動



6月13日(木)の6時間目は、4~6年生全員が参加する、クラブ活動の初回でした。クラブの時間があまり取れなくなった今年度、学校では子どもたちにアンケートを取って、やりたいことを探ったり、指導できる人材を探したりしたそうです。その結果、手芸、料理、工作、卓球、ダンス、パソコン、フラワーアレンジメント、空手、バドミントン、イラスト、和紙工芸、吹き矢、写真、という13の多彩なクラブができました。日頃、公民館活動をしている方を始めとした講師陣が特技をいかして指導にあたり、どの教室でも、子どもたちの真剣かつ楽しそうな様子が見られました。(取材 中本)



料理クラブ



スポーツ吹き矢



手芸クラブ

私は岐阜県東濃に生まれ、同郷の主人と結婚した後、伊那谷に居住し、娘一人を育てました。その娘は縁あってこの松本に嫁ぎ、三人の子どもに恵まれました。主人は、昨今二人に一人といわれる病で、三ヶ月の闘病の末六十三歳で旅立ち、一昨年二十三回忌を終えました。三人の孫と少なからず楽しい思い出を作り、趣味も堪能できましたので、短いながらも幸せな人生だったと

生活雑記

**八十年余の人生**

松岡 三尾 律子

思います。主人亡き後は、娘夫婦と孫たちと生活を共にしていましたが、孫たちも成人し、今は松本と伊那の自宅を行ったり来たりする生活です。その中で趣味と学時代から継続している文芸部の冊子発行です。古稀の頃からですが、勧められて仲間に入れたので、「そよかぜ」という季刊誌に寄稿しています。中学時代の遠い日の思い出、現在の生活など様々な事柄が飾らない言葉で文章となり掲載され、会うことができずとも仲間それぞれの様子を知らることができました。私も孫やひ孫たちのこと、主人が残した俳句も載せていただきました。編集者のご好意で、私の掲載文をまとめた「私の歩んだ道八十」を冊子にいただきました。人生の歩みを遺すことができました。